

岡家

岡家は、江戸時代（1603～1867）に、銀鉱山を統括する中央政府の代表である大森代官の下で奉仕する中堅の役人が住んでいた、保存状態の良い武家屋敷です。この家に住んでいた沢井家と鹿野家の当主は、石見銀山で採掘・精製された銀が江戸（現在の東京）の政府蔵に出荷されるまで保管する代官職を歴代務めました。その責任の重さを十分に補い、大森の大通りからは少し離れていますが、代官所からそれほど遠くない場所に広い屋敷を建てることができました。1974年に史跡に指定された際の所有者の名を冠したこの家は、前庭と2つの出入口（大きい方は要人が訪れた時のみに開放されていました）を持つ母屋と、入浴施設を備えた小さな一戸建て、耐火構造の土蔵、小屋で構成されています。岡家は一般公開されていません。